

令和5年10月10日

川崎市議会議長 青木功雄様

横浜市在住者

東扇島東公園岸壁を海釣り施設として開放を求める陳情

陳情の要旨

川崎区東扇島58-1の東扇島東公園の北面に位置し、海（京浜運河）に面する岸壁（潮風デッキ、ボードウォーク）を、海釣りができる施設に開放していただきたい。

陳情の理由

- 1 人口の海浜（かわさきの浜）を持ち、広い敷地を有する東扇島東公園は、老若男女を問わず多くの方が利用し、楽しんでいる公園です。各種の広場、敷地を駆け回る子供たち、簡易な日除けを設置して遊ぶファミリー、潮干狩りの時期ともなれば、所狭しとアサリを探す人で溢れています。バーベキューやドックランを楽しむ家族もいます。

海に面する岸壁には、潮風デッキ、ボードウォークが設置され、潮入りの池もあります。また、祭りやロックフェスなど様々なイベントも行われ、自転車、水泳、マラソンで争われるトライアスロンが、100人以上の規模で行われることもあります。

- 2 他方、海釣り場と言えば、様々な条約等で、大多数の岸壁が釣り禁止となっています。東扇島西公園や浮島釣り園が、海釣り施設として開放されているくらいです。

2020年（令和2年）からは、新型コロナの猛威が襲ってきました。人々の接触や、外出が制限されてきました。しかし、その中で、海釣りが多くの人

を吸収するレクリエーションになってきました。

とりわけ若い男女、小さな子供が走り回る若いファミリーたちが、海釣りをし始めました。今では、若者男女、若いファミリーが、海釣り場で竿を振る人々の半数から3分の2を占めています。

多摩川でも、昨年から、アユルアーを使用したアユイングという新たな釣り方が開発され、若者たちを引きつけています。

しかし、海釣り場の数が少なすぎて、土日ともなれば、東扇島西公園も肩が触れ合うような釣り場となります。釣り場に来ても、入れない事態も起きています。

3 このような中で、海釣りに適する場所が、一つでも二つでも開放され増えるならば、川崎の魅力も増していきます。今では、川崎は南武線沿線のIT企業や、ラゾーナに象徴される商業施設、川崎駅や武蔵小杉駅周辺の高層マンション群に代表される先進地域です。日本一の出生率を誇り、子供たちに優しい地域との評判もあります。

- ・ 少子高齢化が進む日本の中で、ファミリー層を引きつける施策の一つとして、レクリエーションの充実があると思います。
- ・ 幸い川崎市は、多摩川や東京湾に面しており、地の利があります。それをもっともっと活用すべきではないかと思います。
- ・ 東扇島東公園内の利用度では、海に面する岸壁は、散歩する人の利用くらいです。岸壁そのものは、100m以上の長さを持ち、幅もあって、まだまだ活用できる余地があります。広い駐車場もあります。イベント時には、多目的広場が臨時駐車場になっています。公共交通機関（バス）も通っています。
- ・ 少子高齢化社会到来の中で、川崎市の魅力を充実させ、若いファミリー層を引きつけるレクリエーション施設として、東扇島東公園の岸壁、潮風デッキを、海釣り施設に開放していただくよう陳情いたします。